

信州 “Basic”

～授業づくりのポイント～



学習環境編



- I 「教育は人なり」ってどういうこと？
- II どの子ども落ち着いて学習できる教室環境づくりとは？
- III 学び合える雰囲気の学級づくりって難しい…
- IV – 1 家庭学習を習慣付けるにはどうしたらいいんだろう…
2 宿題を出してはいるけれど…

授業編

- I 「教材研究」って何をすればいいの？
- II 一時間の授業の流れをもとに、「3観点」の充実を図ろう！

授業がもっとよくなる3観点

次の3観点を意識して、確認しながら毎日の授業をしてみませんか。

ねらい(つける力)を明確にしましょう。

授業の流れにめりはりをつけましょう。

ねらいの達成を見とどけましょう。

1時間の授業では

はじめ **ねらいを明確に**
学習問題(課題)を黒板等に分かりやすく示しましょう。

なか(追究) **めりはりをつけて**
学習内容に応じて
・触れて
・かかわって
・考えて
・感じて
場面をつくりましょう。

おわり **ねらいの達成を見とどけて**
見直しや、定着・発展問題を
行う時間をとりましょう。

長野県教育委員会事務局 数学指導課



「3観点」を意識したいとは思っているんだけど…

- 1 「ねらい(つける力)を明確に」って
どういうこと？
- 2 ① 授業の「めりはり」ってどういうこと？
② 「言語活動の充実」って言われているけれど…
③ 「指導と評価の一体化」ってどういうこと？
- 3 授業の終末段階では何をしたらいいんだろう…

- III – 1 「板書計画」ってどのように考えればいいの？
2 「発問が大切」って言われるけれど…
- IV 「評価」「評価規準」「評定」？ 実はよく分からないなあ…

「教育は人なり」って どういうこと？



それは、子どもの目の前にいる先生が一番の学習環境だということです。

先生の魅力にひかれ、あこがれる。先生のちょっとした失敗に親しみをもつ…。

私たちに求められているのは、教職に対する強い情熱に支えられた「豊かな感性」「確かな専門性」そして、「品位」です。

【豊かな感性】

私たちは、個性豊かな子どもたち、多くの保護者や地域の方々と日々接しています。相手の言葉や態度、表情から何を感じ取るか。ここが勝負です！



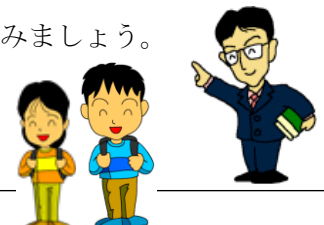
【確かな専門性】

「教師」である以上、子どもたちに間違ったことを教えるわけにはいきません。だからこそ、私たちは「学びの専門家」であり続けなければなりません。



【品位】

私たちは「先生」と呼ばれます。「先生」は敬称です。自分が敬称で呼ばれることに値する人間であるかを自ら問い、自分の姿を見つめてみましょう。



こんな先生、大好き！



- ・「先生は、うれしいとき、悲しいとき、そっと声をかけて話を聞いてくれる。」
- ・「先生に、『どうしていろんなこと知ってるの？』って聞いたら、『そりゃ、先生だって勉強しているからだよ』って言ってたよ。私も頑張らなくちゃ！」
- ・「先生は、話を聞くとときはいつでも、しっかり私の方に体を向けて、目を見て聞いてくれるよ。」

これじゃ、困っちゃうなあ…



- ・「いつも『忙しい』と言って、ちっとも話を聞いてくれないよ。」
- ・「授業で質問したのに、適当にごまかして、きちんと答えてくれなかった。」
- ・「『片づけをしなさい』『そうじは大切だよ』と言っているけれど、先生の机は、いつも散らかっているし、そうじも一緒にやってくれないなあ。」

さあ、みなさん。いかがですか？ 子どもたちは、毎日、あなたを目の前にして育っていくのです。

どの子ども落ち着いて学習できる 教室環境づくりとは？



放課後の教室を見とどけましょう。子どもが帰った後の教室に、子どものぬくもりが残っています。子どもの成長の様子や心の状況も見えてきます。

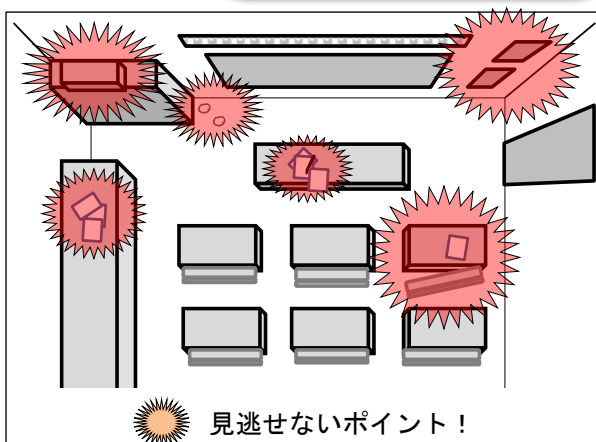
「あれ？昨日より連絡黒板がきれいに仕上がっている…当番の仕事の大切さをみんなに伝えよう。」
「最近、ロッカーが片付いていないな…何かあったのかな？気をつけて見ていこう…」 など

このように、放課後の教室は、子どもからのサインがあふれています。これを次の日の指導につなげていきましょう。

ではここで、「安全」「安心」「快適」の三つから、自分の教室環境を点検してみましょう！



- ☐ 前面に子どもが確認できる避難経路図がありますか？
- ☐ はさみや画鋏等が、決められた場所にありますか？
- ☐ テレビや棚などの転倒落下防止措置をしてありますか？



- ☐ あいさつや温かな言葉のキャッチボールが聞こえますか？
- ☐ 欠席者や早退者の机の上は、整理整頓してありますか？
- ☐ 子どもの作品や持ち物が丁寧に扱われていますか？
- ☐ 係や分担表に全員の名前がありますか？



- ☐ 教室前方の掲示物は、学習への意識が散漫にならないよう配慮されていますか？（多過ぎず、装飾のない文字を中心としたものがよいですね。）
- ☐ ゴミ箱の中にプリント類などが入っていませんか？
- ☐ 掲示物の四隅が画鋏などできちんと留められていますか？
- ☐ 植物や生き物が生き生きしていますか？鉢や水槽など汚れていませんか？
- ☐ ロッカー、棚の上、大机の上は整理整頓されていますか？

そして最後に

- ☐ 下足箱の靴のかかとがそろっていますか？
子どもの一日の様子を思い浮かべながら…

チェックをしてみて、どうでしたか？

教室環境の望ましいあり方について、教えるべきことは教師がきちんと教えましょう。

そのうえで、子どもと一緒に生活しやすい環境をつくっていく姿勢が大切です。



見て見て！僕たちの教室に花が咲いたよ！

学び合える雰囲気の 学級づくりって難しい…



学校のよさは、「共に学ぶ仲間がいる」ことです。そのよさが十分発揮されるためには、よりよい学級づくりをすることが大切です。学級づくりには様々なポイントがありますが、ここでは、授業にかかわるポイントを考えてみましょう。

まず、質問です！

授業中にあなたは、下の二人の先生の問いかけのどちらをたくさん使っていますか？

A先生



この問題、分かった人？

分かったこと（できたこと）を
発表してください。

B先生



分からなくて困ったという人？

分からないことや困ったことを発
表してください。

A先生のいいところ

子どもの「できた！」「分かった！」を認め、それを共に学ぶ学級の仲間に広げようとしていますね。

B先生のいいところ

子どもの「分からない」「困った」という声にも耳を傾け、それをもとに、「できた」「分かった」につなげていこうとしていますね。



はい！
私、分かった！

やったー！
できたぞー！



僕、分からないなあ。
先生、教えて！

どうしてこうなるの？
答えを聞いただけじゃ
分からないよ…。

A先生のような問いかけばかりが多くなると、つまづいている子どもは、授業から離れていってしまふことがあります。先輩の先生方が大切にされてきた「教室は、間違えるところだよ」という言葉は、子どもに伝える言葉というより、学級づくり・授業づくりの土台となる「教師の心得」ととらえたい言葉です。分かったことは「分かった！」、分からないことは「分からない！」。それをしっかり受け止めてくれる先生がいてこそ、安心して意思表示のできる子どもが育ち、授業が活性化し、学び合う雰囲気が生まれます。私たちは**A先生とB先生**のよさを**バランスよく**もっていただきたいですね。

☞ 長野県教育委員会のHPには、学級づくりについての詳しい資料がアップされています。参考にしてみてください。
(<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyouiku/kyougaku/shidoukaizen/kaizen23-4.pdf>)

家庭学習を習慣付けるには どうしたらいいんだろう…



家庭学習は、ただ「やりなさい!」と言っただけでは、なかなか習慣付きません。
学年によって内容は異なりますが、家庭の協力は不可欠です。

学級担任は、保護者の皆さんに「子どもがしてもらってうれしいこと」や「子どもへの声のかけ方」など、それぞれの発達段階に応じた対応の仕方の例を、学級や学年の懇談会、個別懇談会、お便り等、機会をとらえて積極的に発信していきましょう。



「ああ、そうだね。」
「こっちはどうかな？」

「あ、そうか〜」
「こっちは、これでいいの？」

小学校低学年等では、一人で学習に向かうことは大変です。たとえ短時間でもおうちの人と一緒にやった方が心に残り、家庭学習の習慣付けにもつながります。



「そうそう!」
「よくできたねえ」
「すごいすごい!」

「わーい!」
「明日も一緒にやりたい!」

子どもにとって（中学生でも）、家族にほめられ、認められることほどうれしいことはありません。
これが、やる気につながります。

低学年

低学年では、家族が直接かかわることが大切です。学年が上がるにしたがって、徐々に直接的なかかわりから、一人での取り組みを促し、その姿を見守り、支えることに家族の役割は移り変わっていきます。どの発達段階においても、家族が子どもにしっかり気持ちを向けていることの大切さは変わりません。

家族の直接的な
かかわりの程度



「おお。一人で頑張ってるなあ」

中学年



「分からないときだってあるさ。やろうとしていることが立派だよ。」

高学年



健康管理に配慮しつつ、そっと見守りましょう。

合格



中学生



一人で取り組む程度

提出されたノートやプリントは、必ず目を通し、コメント等を付けて子どもに返しましょう。このような教師の姿勢があつてこそ、家庭からの信頼が得られます。

宿題を出してはいるけれど…



毎日、内容や分量等、ある程度決まった形で宿題を出す、ということがあります。これは、基礎的な学習内容の定着を図ったり日々の家庭学習を習慣付けたりするうえで有効です。しかし、その宿題が、子どもにとって単なる作業的な活動になっていたり、教師にとって提出状況をチェックするだけのものになっていたりすることはありませんか？



「漢字練習ノート1ページ。毎日提出。」という場合を例に、次のポイントにしたがって考えてみましょう。

① 目的 ② 内容 ③ 評価方法 ④ 子どもや家庭へのフィードバック

① 目的

【習慣付け】

毎日やって、提出させること。

【学習内容の定着】

既習の漢字を確実に定着させること。

【個に応じた力の伸長】

自分が、まだ覚えていない漢字、間違いやすい漢字を身に付けさせること。

② 内容

・使用するノートの字数等を含めて分量を指定する。

・範囲等を指定する。
・正しく書く際のポイント等を示す。

・特に範囲は指定せず、子どもの実態を踏まえて、学習の仕方やノートの使い方を含めて指導する。

③ 評価方法

・必ず教師のサイン等をする。
・提出状況のチェックとそれにかかわる声がけをする。

・「とめ、はらい、はね」等を含めて正確さをチェックし、必要に応じて朱書きしたり、再度練習を促したりする。

・正確さをチェックし、必要に応じて朱書きをする。
・その子どもの実態に照らし、練習している漢字の適切さや今後取り組んだ方がよい漢字等についてアドバイスをする。

・今日も〇がついてるぞ！

・ここに気を付けねばいいんだね。

・ここをもう一度やってみよう。
・明日は、p.Oにチャレンジしよう。

④ フィードバック

・取り組みのよさを、通知票や保護者懇談会、個人面談等で認める。

・単元テストや定期テスト等でその範囲から出題し、取り組みの成果を実感できるようにする。

・取り組みによって見られた伸びや変化を認め、本人の自覚を促す。
・学級通信等で取り組みのよさやその成果について発信する。



・毎日頑張っていたら、先生にほめられたよ！

やってよかった！

・漢字テストで、満点とれたよ！



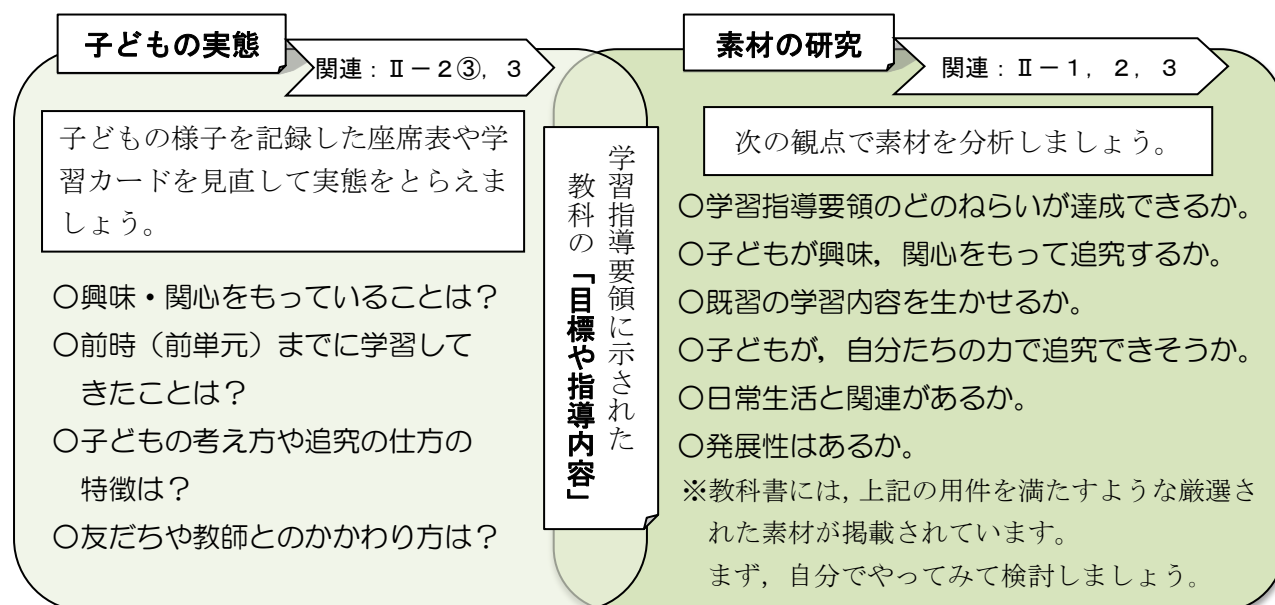
学年や時期、子どもの実態や教師のねらいによって、目的を決めたり組み合わせたりしましょう。決めた目的を子どもに伝え、子どもも目的を明確に意識して取り組めるようにしましょう。

「教材研究」って 何をすればいいの？



「教材研究」とは、「子どもの実態」「目標や指導内容」「素材の研究」の三つをもとに教材化を図り、指導方法を構想する一連の過程のことです。ここでは、それらの内容と相互のかかわりについて考えてみましょう。

○「子どもの実態」と「素材の研究」は、その単元（題材）や授業の「ねらい」に照らして行います。



教材化

子どもの実態と素材の研究を踏まえ、目標や指導内容を達成するために授業を構想しましょう。

- ① 素材の何に着眼し、どのような追究を促すかの決めだし
〔素材のどこに注目させ、どのような学習問題（課題）で追究を促すか〕
- ② 学習場面の構成〔どのような学習過程をたどればよいか〕
- ③ 学習形態の決めだし〔個人追究か、グループ学習か、全体追究か〕
- ④ 個の考えが生きる追究場面の工夫〔個人追究の場面の確保〕
- ⑤ 授業終末の子どもの姿のイメージ化〔評価の計画〕

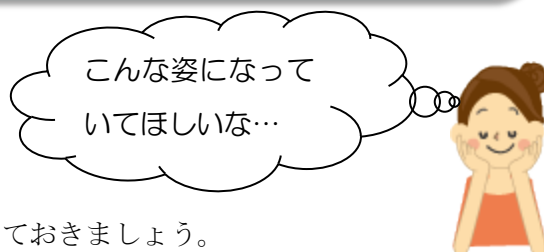
関連：Ⅱ－１
Ⅲ－１、２

関連：Ⅱ－２
Ⅲ－２

関連：Ⅱ－３、Ⅳ

せっかく時間をかけて行った教材研究を「机上の空論」にしないためには、常に子どもの姿を思い描いていることが大切です。

特に授業の導入と終末の子どもの姿は、必ずイメージしておきましょう。



「ねらい（つける力）を明確に」 ってどういうこと？



○こんなことはありませんか？

導入が終わり、個人追究が始まってから、子どもに「先生、今、何やるんだっけ？」と言われる…

これは、導入で、子どもにねらいが意識付いていないのかもしれない。

子どもにねらいを意識付けるには…

- 具体物を操作したり、図を描いたり、学習カードに自分の考えを書いたり、考えを発表し合ったり…。このような活動によって、学習問題（課題）について、子どもが主体的に考えたり、その後の追究に見通しをもったりできるようにする。
- 学習問題（課題）を、目立つ位置に板書する。
- 学習問題（課題）を、子どもと共に読んだり、ノート等を書く時間を確保したりする。



○こんなことはありませんか？



研究授業で、子どもが意欲的に調べたり話し合ったりしていたので、とてもいい授業ができたなあと思いながら職員室に戻ると、先輩の先生から「子どもたち、元気に活動していて、とってもいい雰囲気だったね。でも、この時間につける力は何だったのかなあ…」と言われてしまいました。

子どもが活発に学習活動に取り組んでいるということは、とても素晴らしいことです。しかし、「授業のねらい」という面から考えると不十分な場合があります。ここでは、子どもが何に向かって活発に取り組んでいたのか、ということをとらえていくことが大切です。「ねらいがはっきりしている」ということは、「学ぶ中身がはっきりしている」ということです。「活動あって学びなし」とならないように気を付けましょう。



ねらいを決めだすには…

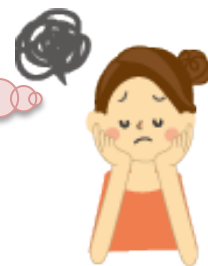
- ①学習指導要領で示された各教科の目標や指導内容を確認する。
- ②前時までの子どもの実態をとらえる。
- ③「知識や技能の定着を図る」のか、「思考力・判断力・表現力等を育む」のか等をはっきりさせる。

ねらいを明確にして授業を構想するには…

- ①ねらいをもとに、授業終末の子どもの姿をイメージする。
- ②そのような姿にするには、どのような学習問題（課題）で、どのような活動を展開することがふさわしいか考える。
- ③ねらいを踏まえ、どのような言葉でまとめの板書をするか考える。

「触れて」「かかわって」「考えて」「感じて」…

授業の「めりはり」ってどういうこと？



子どもが学習問題（課題）に対して主体的に追究するためには、一時間の学習内容に応じて、事象に触れて学ぶ場面、一人でじっくりと考える場面、友とかかわって学ぶ場面などを適切に組み合わせて位置付ける必要があります。授業のねらいを達成するためにどのような場面を設定するか十分に教材研究を行いましょう。それが授業の「めりはり」につながります。



学習問題（課題）

「書く活動」を適切に取り入れましょう。



考えて

「〇〇について調べてみよう」「◇◇を試してみよう」…
ここで、自分なりの予想や見通し、疑問などがもてるようにすることが大切です。

個
の
学
び
の

具体物や視聴覚機器を活用して…

- 具体物を提示する、実際に操作するなどの活動を取り入れることで、子どもの新たな発見を生み出すことができます。
- 挿絵、写真、映像などを効果的に提示することで、子どもの追究意欲が増したり、新たな発見を促したりして多様な考えを引き出すことにつながります。

触れて

感じて



考えて

予想に反した結果や疑問を授業に位置付けてみましょう。

広
が
り
や
深
まり

ペアやグループ活動を取り入れて…

一斉学習だけでなくグループでの活動を取り入れることで、子どもは意見が出しやすくなり、互いの考えを聞き合うことができるようになります。また、助け合いや共同追究する場面を設定することもでき、授業にめりはりをつけることにつながります。しかし、この活動を行うときにはねらいや目的、手順等が明確になっていないと、逆に意味のない時間になってしまうことがありますので注意が必要です。

触れて

感じて

かかわって



考えて

学習問題（課題）に対する自分なりの考えをまとめる時間を確保しましょう。また必要に応じて机間指導を行いましょう。



「めりはり」のある授業にするには、リズムやテンポが大切です。

- ・聞き取りやすい声の大きさ、話すスピード、抑揚、身振りや手振り等を工夫しましょう。
- ・子どもの思考を促す「間」の取り方を工夫しましょう。（p.13 参照）



「言語活動の充実」って 言われているけれど…



「話す」「聞く」「書く」「読む」等の言語活動は、その教科等でつける力を明確にし、その力をつけるために手段として活用することが大切です。言語活動は、一時間の授業の中の様々な場面で活用されるべきものですが、ここでは主に「めりはり」と関連させながら考えてみましょう。

こんなことはありませんか？



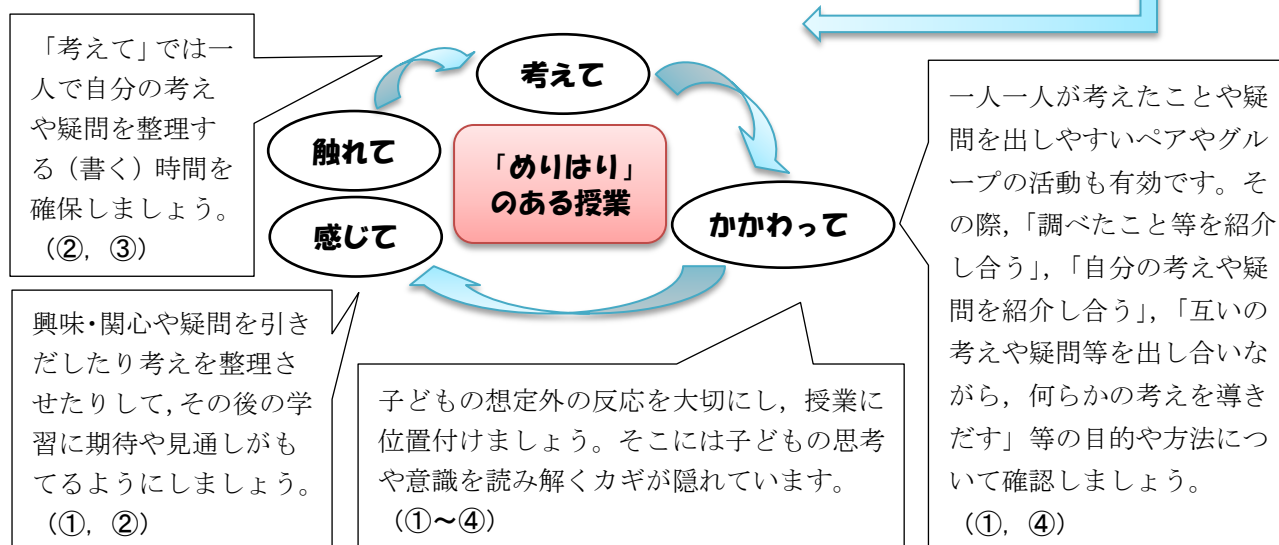
なぜ、こうなってしまったのでしょうか？



このような場合、次の視点で授業を振り返ってみましょう。

- ① 書いたり話したりする目的や意味を理解させていたか。
- ② 書いたり話したりする必要感を感じ取らせていたか。
- ③ 書く内容や話す内容をもたせていたか。
- ④ 書き方や話し合い方を身に付けさせていたか。

☞ 視点①～④と、p.8の「めりはり」のキーワード「触れて」「かかわって」「考えて」「感じて」との関連について、一例を示します。



「言語活動の充実」というと、話したり書かせたり、また発表させたりすることのみに目が向きがちですが、そのこと自体が目的ではありません。どんな力をつけるために、何を話させ、何を書かせるかが大切です。

「聞く」「読む」も言語活動

聞き方の指導や聞き取った内容の確認、文章や資料、数式、楽譜等の読み方の指導とともに、読み取る時間の確保も大切に！

「指導と評価の一体化」って どういうこと？



指導と評価は別物ではなく、評価の結果によって後の指導を改善し、さらにその後の指導の結果を評価するという連続的な営みです。指導に生かす評価を充実させることを「指導と評価の一体化」と言います。「座席表」を使って、机間指導による評価と指導を継続させ、充実させるための方法を紹介します。（例：小学校第5学年算数：「三角形・四角形の角」）

授業の前に次の①、②を確認し、授業中に③を行います。

①本時の評価規準を確認 ②座席表の隅に評価規準をメモ ③子どもの様子を記入

〇年〇組 座席表

第1時 測ったり切ったり集めたりして、三角形の角の和が 180° になることを説明する。
第2時 三角形の角の和 180° をもとに、分からない角の大きさを計算できる。
第3時 三角形の角の和 180° をもとに、四角形の角の和が 360° を説明する。
第4時 五角形の角の和の求め方を説明したり、練習問題を解いたりする。

1 長野 創
(1) き 説明できる
(2)

(3) **C (説明×) → OK**

まず全体をさっと見て、つまづいている子どもを把握します。
Cの状況を把握し、早めに助言等を行い、本時の追究ができるようにします。

2 松本しずか

(1) は、き

(2)

(3) **✓**

全員の学習状況を記入するのは難しいので、記号化します。
例えば、
・ Bの場合は記入しない。
・ 自分が分かる記号を使う。
測る→は、切る→き
折る→お
最初に指名→✓ など

3 伊那あづみ

(1) は、き、お

(2)

(3) **A (対角線も)**

1単元1枚の座席表で評価できるように、評価規準と評価を毎時間ペン色など変えて書き加えていく方法も有効です。

9 塩 平磨

(1) は

Bの状況より質的な高まりが見られた場合はAと評価します。考え方が友にわかるように説明を記述させたり、他の場合を考えさせたりして、さらに質的な高まりへの助言等を行います。



〇〇さんの発表を思い出してやってみたらどうかな？

そうか！ここが余分に足されているんだ！



【机間指導のポイント】

①対話や観察などを通して、一人一人の子どもの学習状況を的確に把握する。

②自力で解決できるように、子どもの目線をつまずきに応じた端的な助言や励まし（考えのよさを認める声がけ）を行う。

③発表の順番やかかわらせ方を考え、共同追究を構想する。

1枚の座席表に数時間を記入することで、前時のとらえと本時の手だて、その評価といった「指導と評価の流れ」から子どもの姿が見えるようになります。

線は引いたけれど説明できない。
→「 180° の三角形はどこにできたかな。」

授業の終末段階では 何をしたらいいんだろう…



振り返りの時間を確保し、一人一人の子どもに学習内容が確実に定着しているか（ねらいが達成されているか）の**見とどけ**と、評価に基づく**個に応じた指導**をしましょう。

（例）

具体的な子どもの姿で設定しましょう。

ねらい：「四角形の4つの角の和が 360° になることを演繹的に説明できる。」

←評価規準：「三角形の角の和をもとに、四角形の角の和が 360° を説明する。」

①本時の追究を見返し、子どもの言葉で学習内容をまとめさせましょう。

〇〇さんの説明を聞いてやってみたら、余分な角度を引けば説明できると分かったよ。

自己の変容の過程とともに、友の考えのよさにも目を向けさせましょう（相互評価）。

②まとめた内容をもとに、定着問題に取り組ませましょう。

（例）3つの三角形に分けても説明できるかな？



この問題も同じ考え方でできそうだな。やってみよう。



③【ねらい達成の見とどけ】

余分に足している角度に気付いて説明を完成させているか、個々の子どもの実態を把握しましょう（机間指導）。

ねらいによっては、学習カードの記述や座席表を使って評価しましょう。とらえた取組のよさを伝え、次時の見通しをもたせましょう。

④【個に応じた指導】

評価に基づいて、補充的な学習が必要な子どもに指導しましょう。

・「黒板の～を見返してごらん」
・「〇〇さんの発表を思い出してみよう」

あれ？
 $180^\circ \times 3$
で 540°
になって
しまうよ。



そうか！
ここが余分に
足されているんだ。



④【個に応じた指導】

自主的に取り組める発展問題も用意しておきましょう。

先生
できたよ！

黒板の練習問題もできたよ。
余分なところを見つけると、分け方が違っても説明できるね！



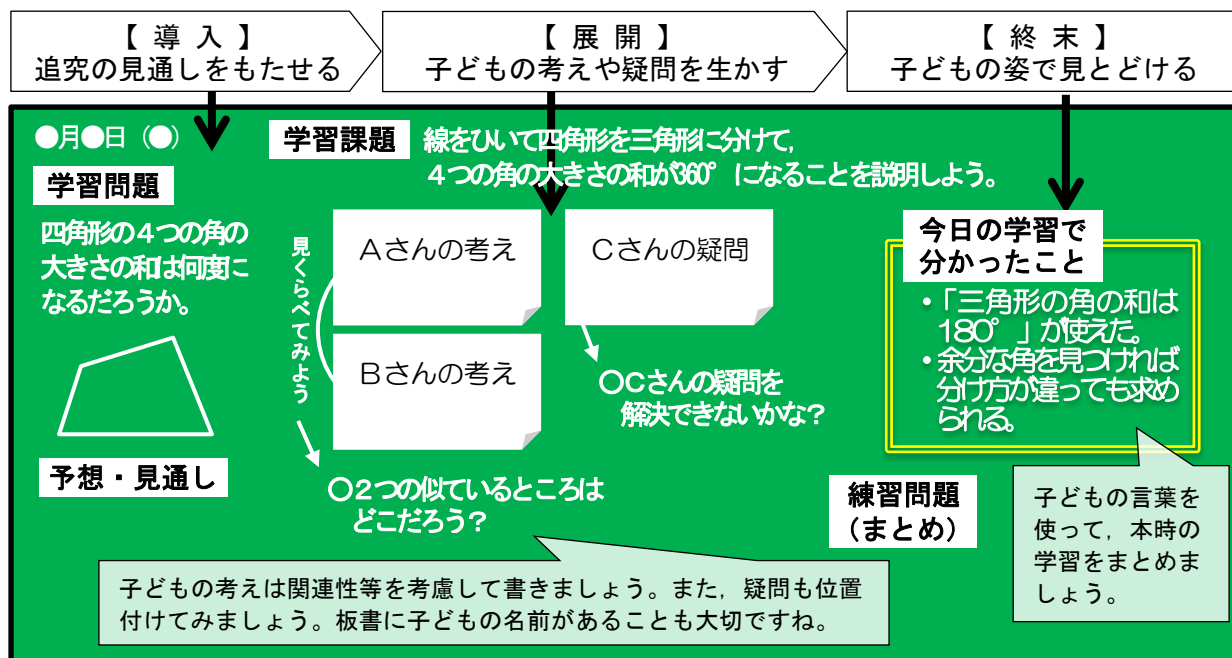
学習内容定着のために、終末段階は大切にしないといけないな。〇さんや△さんはまだうまく説明できなかったから、次は五角形でもう一度考えさせてみよう！

「板書計画」って どのように考えればいいの？



一時間の授業で、どのように黒板を使うのかを考えてみましょう。これは、「授業構想」そのものです。自分が教材研究してきたことを板書でどのように表現するのかを考えてみましょう。分かりやすい板書は、子どもの理解の高まりや思考の深まりを促します。

○まず、一時間の授業の流れを思い浮かべながら、黒板のどの位置に何を書くかを考えてみましょう。



(例：小学校第5学年算数「三角形・四角形の角」)

こんなことにも気を付けてみて！



- ・基本は白チョーク。強調は黄色。赤や青は控えめに。
- ・子どもにとって読みやすい大きさや濃さ。(ときどき教室の後ろから見てみよう。)
- ・子どもの活動中の板書は避ける。(子どもの活動への集中を妨げます。)
- ・途中で消すことはせず、一時間の流れが見える板書を心がける。



授業の終わりに板書を写真に撮って振り返ってみましょう。とても勉強になります。

板書を生かした
ノート指導(例)

日時

学習問題(課題)

自分の考えや疑問

★消しゴムはできるだけ使わない。

友だちの考え

分かったこと

★自分の言葉で！

まとめ

練習問題・発展問題

自己評価・宿題確認

ここがポイント！

自分の考えや疑問を書く時間を必ず確保しましょう。



「発問が大切」って 言われるけれど…



発問は、子どもの考えを引きだしたり考えをより深めたりする重要な手だてです。発問の質が、子どもの活動の様子や授業のねらいの達成に大きく影響します。

こんなことはありませんか？



皆さん、〇〇について、どう
思いますか？

「どう？」って言われても…

自分の感想とか、気付いたこととか、あるでしょう？



ん…、そうだなあ…。例えば、「□□な
ところがおもしろい」とか、「□□が◇◇だ
からこうなっているんだな」とか…。

先生。どういうこと
を言えばいいの？



なぜ、こうなってしまったのでしょうか？



ここには、三つの大きな問題がありますね。

- ① 教師が問おうとしている内容を、子どもに伝えられていない。
- ② 教師が発問の言い換えをしている。（これは、子どものつまづきをあらかじめ予想したうえでの言い換えではなく、ほとんど苦し紛れの言い換えですね。）
- ③ 子どもから引きだしたかったことを、教師が自分で言っている。

これらの問題の原因は、「教材研究」の不足です。「子どもの実態」「目標や指導内容」「素材の研究」に基づいて、「言い換えることなく子どもに伝わる言葉」を見つけていきましょう。大切なことは「子どもの意識や思考の流れに沿う」と「本時のねらいの達成に向かう」です。

☞ 発問を考える際のポイント！

○何のために発問をするのかを明確に。

- ・既習内容の確認のため
- ・自分の考えをもたせるため
- ・新しい気付きを促すため
- ・学習内容の定着を評価するため／等

☞ 発問をする際のポイント！

- ① 問うている内容を明確に。
- ② 端的に、分かりやすい言葉で。
- ③ 主要な発問の数は多過ぎず。

★発問の後は「間」を取る余裕を持ちましょう。
「沈黙」が子どもの思考を促します。



☞ 発問の例

【導入で】子どもの気持ちに寄りそいながら

- ・気付いたことはありますか。
- ・どんなことを使えばよさそうですか。

【机間指導で】個々の実態に応じながら

- ・どこで困っているの？
- ・前の時間に学習したことが使えないかな。

【共同追究で】真剣な眼差しで、うなずきながら

- ・Aさんの考えを生かすことはできませんか。
- ・三つの方法を比べて似ている所はありませんか。

【全体を通じて】

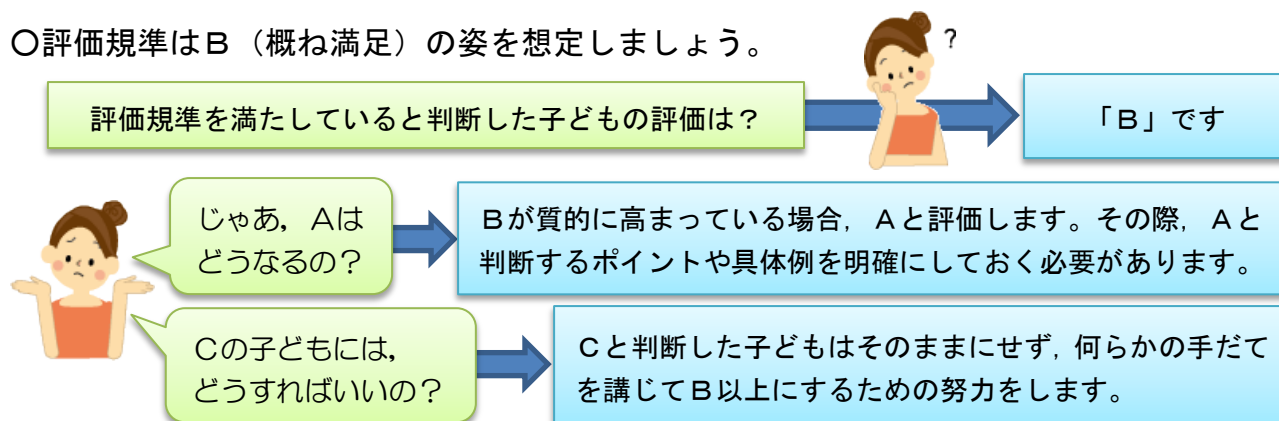
- ・関連してありますか。 ・続けてどうですか。
- ・別の考え方はありますか。

「評価」「評価規準」「評定」？ 実はよくわからないなあ…



評価には、「めりはり③」（p.10）のような「評価したことをその場での指導に生かすもの」と、単元（題材）の最後、学期末や学年末に行う「評価結果を記録に残すもの（評定を決めるものとなるもの）」があります。どちらの場合も、「評価規準」の設定の仕方が重要なカギとなります。

○評価規準はB（概ね満足）の姿を想定しましょう。



では、具体例で考えてみましょう。（小学校 第1学年 音楽 観点3「音楽表現の技能」）

評価規準	Aと判断するポイント	Cと判断した児童への手だて
「(楽曲名)」の気分を感じ取りながら、声の出し方に気を付けて歌っている。	声の音色の変化の程度	思いを聞き、教師の範唱を真似させ、声の出し方や演奏の仕方の変化に気付けるようにする。
Bさんは、曲の気分を「優しい感じ」と感じ取り、その感じを表すために、小さな声で歌っていた。→ B	Aさんは、「優しい感じ」を表そうとして歌ったら、発声がやわらかくなって、声の音色が変わっていた。→ A	Cさんは、「優しい感じ」にしたいと言っている。私が歌い方を変えて歌って聴かせて、声の出し方に気を付けられるようにしよう。

○一時間で評価する項目を精選しましょう。

	観点1	観点2	観点3	観点4
第1時	○			
第2時		○		
第3時			○	
第4時	○			○

一単元（題材）で評価すべき観点を、毎時間すべて評価することはできません。その時間はどの観点について指導し、評価するのかを精選し、明確にしておくことが「授業がもっとよくなる3観点」を意識した授業につながります。

○学年や教科内で評価の総括方法を共有し、「評定」を定めましょう。

①単元（題材）の総括

・原則として、その単元（題材）のすべての観点が「B」であれば、総括評価は「B」となります。

②学期末、学年末の総括

・原則として、その学期または学年で学習したすべての単元（題材）の総括評価が「B」であれば、その学期または学年の評定は「3」（5段階評価の場合）となります。



科学技術が発達し、生活全般が便利になってきた時代だからこそ、人とのかかわりを通して自他共によりよく生きていくために、豊かな心の育成が求められています。

本県では、日々の暮らしの中で自分のあり方を見つめ、人とのかかわりの中で自分の持ち味を発揮していけるよう「本を読む、汗を流す、あいさつ・声がけをする、スイッチを切る」というような「不易」な実践を「共育クローバープラン」として位置付け、子どもたちも、教員も親も、長野県の全ての人々が、日々の暮らしを検証しつつ取り組んでいこうと、平成14年4月より実践しています。

この冊子の作成にあたり、下記各サイトのイラストを使用させていただきました。

- 「子供や赤ちゃんのイラストわんパグ」(WANPUG) [<http://kids.wanpug.com/>]
- 「みさきのイラスト素材」 [<http://www.misaki.rdy.jp/illust/>]
- 「神奈川県立総合教育センター」 [<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/illustration/>]

※サイト管理者の皆様には、作成の趣旨をご理解いただき、無料での使用についてご快諾いただきましたことに、心より感謝申し上げます。